

## おわりに

限られた紙数ではありませんが、名古屋大学農学部が、諸事情によって遅れたものの大学関係者や地元の強い熱意や支援によって創設され、安城時代の草創期にはさまざまな苦勞をして現在の礎をきざった、その歴史の一端はご理解いただけたかと思えます。

名古屋大学農学部は、一九九七（平成九）年度から、いわゆる大学院重点化によって、大学院生命農学研究科を中心とする組織として再出発しました。「農学のフロンランナー」として、生命科学の研究を通じて環境に調和した人類の発展をめざす、「生命農学」に関する高度な研究と教育を実践しています。二〇〇四年の大学法人化をへた現在、一二〇〇人近い学生・院生を持つ組織に成長し、国際社会に優秀な研究と人材を送り出しています。

二〇〇一年、農学部は創立五〇周年を迎え、盛大な祝賀会が催されましたが、昨年六月、さやかかながらもう一つの五〇周年祝賀会がありました。農学部第一期生の卒業五〇周年を記念するものです。七〇歳をこえて元気な姿を見せた第一回卒業生たちが五〇年前に植えた三本のメタセコイアは、現在でも後輩たちを見守っています。

## 主要参考文献

- 名古屋大学史編集委員会編『名古屋大学五十年史』通史一・二、部局史二（名古屋大学、一九九五、八九）
- 名古屋大学農学部五十年史編纂委員会編『名古屋大学農学部五十年史』（名古屋大学農学部、二〇〇二）
- 名古屋大学農学部三十年史編纂委員会編『名古屋大学農学部三十年史』（名古屋大学農学部、一九八二）
- 『名古屋大学農学部同窓会報（セコイア通信）』
- 愛知県学事係長片山五郎編『名古屋大学農学部創設について』（名古屋大学農学部創設後援会、一九五二）
- 永塚利一『渋沢元治』（電気情報社、一九六九）
- 春光同門会編『田村春吉』（名古屋大学医学部皮泌科春光同門会、一九五四）
- 須川義弘『半生を顧みる』（須川徳子、一九八二）
- 名古屋大学学生部『名古屋大学学生生活態度調査 第一次報告』（一九五七）
- 安城市史編さん委員会編『安城市史』（愛知県安城市役所、一九七二）
- 安城農林百年史編纂委員会編『安城農林百年史』（愛知県立安城農林高等学校同窓会、二〇〇二）
- 愛知県議会議務局編『愛知県議会史』第三〜九卷（愛知県議会、一九五九〜一九八一）
- 塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生『愛知県の百年』（山川出版社、一九九三）
- 愛知県編刊『愛知県昭和史』上・下巻（一九七二・一九七三）
- 愛知教育大学史編さん専門委員会編『愛知教育大学史』（愛知教育大学、一九七五）
- 作道好男・作道克彦編『岐阜大学農学部六十年史』（教育文化出版、一九八三）

著者略歴

堀田 慎一郎 (ほった しんいちろう)

一九六九年 愛知県豊橋市生まれ

二〇〇〇年 名古屋大学大学院文学研究  
科博士後期課程修了(歴史学)

現在 名古屋大学文学書資料室助手

専攻 日本近代史、記録史料学

名大史ブックレット11

農学部誕生と安城キャンパス

——学部誕生と草創期①——

二〇〇六年三月三十一日 第一刷発行

著者 堀田 慎一郎

編集発行 名古屋大学文学書資料室

〒464-8601 名古屋市中種区不老町

電話 〇五二(七八九)二〇四六

印刷所 株式会社 ク イ ッ ク ス

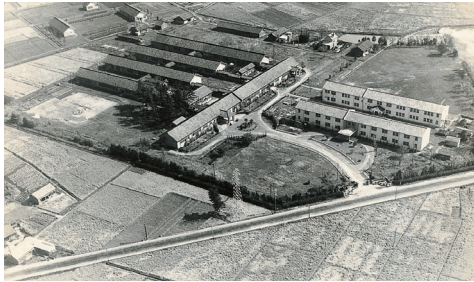
〒456-0004 名古屋市中熱田区桜田町一九二〇

電話 〇五二(八七一)九一九〇

# 名大史ブックレット

シリーズ 既刊本

- 
- ① これまでの大学院・これからの大学院  
山口 拓史 2000年12月刊
- 
- ② 名古屋大学 キャンパスの歴史1 (学部編)  
神谷 智 2001年2月刊
- 
- ③ 名古屋大学 スポーツの歩み  
高橋 義雄 2001年3月刊
- 
- ④ 豊田講堂と古川図書館—名古屋大学の寄付建物—  
堀田典裕・木方十根 2001年12月刊
- 
- ⑤ 名古屋大学最初の外国人教師—ヨンゲハンス先生とローレツ先生—  
加藤 鉦治 2002年3月刊
- 
- ⑥ 草創期の名古屋大学と初代総長渋沢元治  
神谷 智 2003年3月刊
- 
- ⑦ 名大祭—四〇年のあゆみ—  
山口 拓史 2003年3月刊
- 
- ⑧ 岡崎高等師範学校—新制名古屋大学の包括学校③—  
山口 拓史 2004年3月刊
- 
- ⑨ 豊田講堂—*Toyoda Auditorium*—  
山口 拓史 2004年9月刊
- 
- ⑩ 名古屋高等商業学校—新制名古屋大学の包括学校②—  
堀田慎一郎 2005年3月刊
-



表紙写真：名古屋大学安城キャンパス  
(1951～1966年) 全景